

平成 28 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472301074	事業の開始年月日	平成17年10月1日
		指定年月日	平成17年10月1日
法人名	有限会社 フェルシ		
事業所名	グループホーム ぼぼ箱根板橋		
所在地	(〒250-0034)		
	小田原市板橋933-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成28年11月26日	評価結果 市町村受理日	平成29年3月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気の中で、心身を活性化し、認知症の進行の緩和を図る。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年12月12日	評価機関 評価決定日	平成29年3月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 本事業所は箱根登山鉄道の箱根板橋駅から徒歩10分の香林寺の門前に位置している。周囲は閑静な住宅地で、すぐ傍には「日本の歴史公園100選」にも選ばれた庭園のある松永記念館もある。事業所の風呂場・廊下・リビングの床は、一階は楓、二階は桜の材質となっており、ワックスをかけていないので、材質そのまま木の温かみを感じられる。また壁と柱は壁紙と漆喰で作られており、和風の伝統的な雰囲気が感じられる。漆喰は燃えづらい材質となっているので防災にもなっている。また脱衣所やリビング・食堂、居室は床暖房となっており、寒さ対策を講じている。</p> <p>【理念の共有と職員意見の反映】 毎月1回のケアカンファレンスは夜18時から全員参加の上、各ユニット毎に行われている。勤務日でない職員にも日当を出して全員が参加できるようにしている。これにより理念の共有が図られ、職員間の情報も共有化されている。</p> <p>【看護職員との協働による健康管理】 事業所には看護師が2名、准看護師が1名と計3名の看護職員がいる。これにより24時間健康管理が可能となっている。「安心した生活のお手伝い」という理念を具現化している。</p> <p>【地域資源を生かした外出支援】 事業所の目の前に香林寺、近隣には「松永記念館」があり、散歩コースに恵まれている。この他に車の通らない事業者周辺の道路を含め3か所の散歩コースがある。利用者はこの散歩コースを利用して毎日散歩している。松永記念館を除くコースは車いすも通行できる。利用者の平均要介護度は3を超えているが外出の機会を積極的に作っている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ぽぽ箱根板橋
ユニット名	かえで

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に対して、3つの運営理念を休憩室の掲示板や事務所に掲示し、理解に向けた働きかけを行っている	「家庭的な雰囲気を大切に」「心身の活性化を目指した環境作り」「安心した生活のお手伝い」という開設以来の三つの理念を継続している。これらの理念は毎月1回の全員出席のカンファレンスで共有化している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のお祭りや防災訓練に参加し、交流している。	小田原61区自治会に加入している。目の前の香林寺で行われる年2回の「地蔵祭り」や、地域のどんと焼きに参加したりしている。また事業所主催の行事「秋祭り」には地域の家族も来てくれている。ボランティアや中学校・高校の職業体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小田原市が行っている「認知症サポーター研修」に協力し、市内の会場へ講師を派遣している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	秋祭り行事に、町内会長・民生委員・地域包括職員等を招待し、日常の生活状況を紹介。ご家族・ご利用者との交流を促した。	年6回の開催を予定している。参加者は町内会長・民生委員・家族・利用者・地域包括支援センター職員で、他に小田原市の情勢に詳しい法人の居宅介護支援事業所のケアマネジャーが出席している。	運営推進会議と同期日にイベントを行うなど、地域の人に参加して頂けるように工夫していますが、地域の参加者が少なくなっています。さらに地域の方の参加を促すことを期待します。

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請代行や、生活保護受給者の手続き等の際、困ったこと等相談する機会を設けている。また、行政主催の会議や研修等に出席し、連携を深めている。	小田原市介護保険課と要介護認定申請代行などで連携を図っている。また管理者は小田原市グループホーム連絡会の理事をしているので、管理者自らが主導して感染症予防や医療行為などをテーマとした勉強会を行っている。	
---	---	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止について、施設内研修を行い、理解を深めている。	毎年、身体拘束廃止の研修を全職員参加の上、行っている。不適切な言葉は、その場で注意したり、ミーティングでも取り上げて検討している。センサーマットや鈴は家族に了解を得て使用している。夜間を除き、玄関やフロア入口の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員は虐待行為を否定し、人権を大切にしている。身体拘束の研修の際、確認しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度をご利用されているご入居者が複数おり、職員は制度について理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、変更等が生じた場合は、その都度丁寧に説明している。		

10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会が多く、その都度ご意見を伺うようにしている。運営会議への参加を募集しているが、難しい状況で、開催ができ辛い状況である。	家族会は無いが、毎週来訪する家族や遠方から訪れる家族がいる。面会の際に、事業所に対する希望や意見を聞いているが、意見を言う家族は少ない。	
----	---	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月のカンファレンスに出席し、職員と意見交換を交わしている。	毎月1回18時に各ユニット毎に全員出席を前提とした会議を開催している。勤務日でない職員には手当を支払うなどして出席を促している。シフトの変更、イベントの提案、ケアプランの見直し、研修の増加等、職員の意見を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況を把握し、賞与査定時に反映させている。また、経験年数に応じ、ステップアップの為の研修に参加させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ参加させる機会を、多く作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小田原市グループホーム連絡会に参加。管理者は役員をされており、会員施設のケアスタッフが研修等に参加しやすい環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込み時に施設を見学、あるいは体験入居をしていただき、不安感や困り事を傾聴し、安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった段階で、現在のご本人の状況を確認し、ご家族の不安感や困り事・要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に在宅サービスをプランニングしていたケアマネジャーへ連絡をし、状況を確認すると共に、自宅等へ訪問して、アセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中から、ご利用者から昔の風習などを教わりながら、一緒に暮らす者同士の関係を構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に、ご本人の日々の状況を説明し、ご本人の望む暮らしをどのように提供できるか、ご家族に出来ること、施設で出来ることを、一緒に話し合えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも面会に来られるよう、施設をオープンにしている。また、電話や手紙等の代行をし、なじみの関係を継続しやすいよう、配慮している。	友人や知人の来訪は時間制限をせず歓迎している。来訪時は居室で湯茶の接待をしている。お墓参り、日中の外出、なじみの理美容院の利用、買物など、家族の協力を得てこれまでの生活の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで行うレクや作業を中心に、日中、出来るだけリビングで過ごすことにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族等から相談があった時には、守秘義務に配慮しながら、対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時やケアプランの更新時等に、ご家族やご本人から意見を聞いている。また、日常のかかわりの中でも、ご本人の思いを把握するよう努めている。	入居時やケアプラン更新時のアセスメントで利用者の意向を把握している。意向の把握が困難な利用者は表情や態度から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴について聞き取りをし、現在の生活状況等の確認も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操・散歩等を日課として行っている。一人ひとりの趣味などの把握に努め、また、一人ひとりの心身状態や有する力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1回/月カンファレンスを全職員参加で行っている。利用者のケアで気づいた事を話し合い、時にはご家族との話し合いを持ちながら、現状に即した介護計画を作成している。	カードックスに介護計画書を綴じ計画通りにケアがされているかどうかのチェックをその都度している。毎月モニタリングをしており、計画の見直しは、月1回のユニット毎のカンファレンスと随時行っている利用者ごとの「担当者会議」で行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録簿にケアの実施・工夫などを記入し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しに生かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内グループのマンパワーを活用し、柔軟な支援体制を確立している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを活用し、懐かしい曲を鑑賞したり唄ったりしながら、日々の暮らしを楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からの主治医に診ていただいている方は、ご本人の希望を尊重し、通院介助を行っている。	内科医は毎月2回来訪している。家族対応で入居以前からのかかりつけ医を利用している方もいる。看護職員が3名おり、2名は看護師、1名は准看護師である。看護師とは24時間連携が取れている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常で気付いた情報を看護職員に伝え、相談している。 看護職員は、ご入居者に対し、状況に応じて診察を受けられるよう、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを作成し、ご本人の状況について、情報提供をしている。急性期が過ぎた段階で速やかに退院出来るよう、医療機関との連携を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にお看取りのことも含めて、ご家族の意向を確認し、施設の方針の説明を行っている。	開設以来9名の看取りを行っている。事業所の重度化や看取りについて契約時の重要事項説明書で確認している。看取りは、「看取り介護についての同意書」を用いて家族に説明し、同意を得たら、主治医の判断を得て行っている。看取りの研修は外部研修や内部研修を実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者の急変や自己発生時に備えて、緊急対応マニュアルが作成されている。応急時の対応についても、行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災訓練を行っている。1回は消防署に通報する訓練を交えた火災避難訓練。1回は、地域の防災訓練に参加。	年2回、防災訓練を行っている。事業所の訓練に地域の方の参加はないが、年1回行われる地域の防災訓練に参加している。食料及び飲料水は3日分を備蓄している。賞味期限はデータ管理している。なおスプリンクラーは一挙に水を放出する方式でなく、徐々に水が放出される方式のため、避難のための時間を確保して避難を容易にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いや態度に気をつけるよう対応している。	利用者の呼称は苗字に「さん」をつけている。外出時にはトイレ使用のことを考えて、女性の利用者の場合は女性職員が同行するようにしている。プライバシー保護の研修は拘束や虐待禁止の研修と同時に行っている。個人情報の記載がある書類は事務所で施錠管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの時間やティータイムを利用して、ご本人達が何をされたいか希望を聞いている。その中で、出来る事を提案しながら、ご本人が決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ルーティーンとしての日課はある程度決まっているが、ご本人のペースで行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や衣類を一緒に買いに行ったり、ご利用者の希望に併せて、訪問理美容を提供している。		

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好みに合わせて、献立以外の物も提供している。職員と外食したり、季節のお弁当を購入して、お花見を楽しんでいる。	3名の調理専門の職員が食材を地元スーパーで購入し、利用者の食事形態に合わせて調理している。刺身は地元漁港の業者から盛り合わせの形で仕入れている。おせちなどの行事食やケーキなども調理専門の職員が作り提供している。	
----	----	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外に、ティータイムのお茶やおやつ等で栄養や水分の確保をしている。また、ご本人の状態に合わせた食形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で行える人も、必要に応じて職員が口腔内をチェックしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を参考に、一人ひとりに声をかけ、自立に向けた支援を行っている。	トイレは2か所あり、1か所は風呂場の脱衣所の中にあり車いすに対応している。失禁者にはさり気ない声掛けでトイレ又は浴室に誘導している。排泄チェック表でパターンを把握してトイレに誘導している。同性介助をしている。自立の利用者は4名である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前午後に体操を行い、散歩を日課としている。食物繊維の摂取にも心がけている。排泄状態の把握に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、その日の体調やご希望に合わせて、個別対応を心がけている。	入浴は週2回で、都度お湯を換えている。脱衣所は暖房器床暖房を完備し、ヒートショック対策をしている。浴室の周囲の壁は檜作りで檜の香りに満ち、浴槽は石作りで温泉のような雰囲気になっている。同性介助が原則である。ゆず湯や菖蒲湯にすることもあ。入浴を好まない方には声掛けの工夫をしたり時間を変えて促している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息への声掛けを行っている。日中の適度の運動により安心して気持ちよく安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を確認し、理解している。管理は施設で行い、個々の体重の変化や異変について、確認できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事などを、一人ひとりの状態に合わせて、みんなでやっている。 一人ひとりが役割を持ち、楽しみながら生活出来るような援助を心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出かけている。また、市内の施設（フラワーガーデンや小田原城等）に少人数のグループで外出することもある。	天気の良い日は毎日散歩に出かけている。散歩コースは松永記念館や香林寺の他に車が通らない道など3コースあり、散策路には恵まれている。小田原城の花見や菊花展、久野のフラワーセンターに車で出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭管理は施設で行っている。ある程度自己管理が可能な時は、小額の管理はしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等、ご本人が書かれたお手紙を投函している。また、電話の取次ぎ等の援助をしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材を利用した建物で、木の香りや温もりが心地よい環境になっている。玄関や洗面台に季節の草花を飾り、家庭的な雰囲気になるよう、心がけている。	リビング兼食堂は東南に面して終日陽がさして明るい。床は1階は楓、2階は桜の木材でワックスをかけていないので、木の感触があり木の温もりも感じられる。床暖房が完備されている。壁にはクリスマスの飾り、紅葉やイチョウの貼り絵などの作品を掲げ、季節感を表している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやテーブルが置いてあり、いつでも自由に交流出来る様になっている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を入居時にお持ちいただける様、パンフレットに明記し、慣れ親しんだ居住空間に近づけるようにしている。	エアコンやカーテン・照明は備え付けで、ベッドは希望により用意している。タンスやテレビ、家族写真、縫いぐるみなどの馴染みの物を持ち込んでいる利用者もいる。職員は居室担当制で担当者は居室の掃除や備品・衣類の整理整頓をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、風呂場等に手すりを設置し、自立を促すよう、配慮している。			

事業所名	グループホーム ぽぽ箱根板橋
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に対して、3つの運営理念を休憩室の掲示板や事務所に掲示し、理解に向けた働きかけを行っている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のお祭りや防災訓練に参加し、交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小田原市が行っている「認知症サポーター研修」に協力し、市内の会場へ講師を派遣している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	秋祭行事に、町内会長・民生委員・地域包括職員等を招待し、日常の生活状況を紹介。ご家族・ご利用者との交流を促した。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	申請代行や、生活保護受給者の手続き等の際、困ったこと等相談する機会を設けている。また、行政主催の会議や研修等に出席し、連携を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、施設内研修を行い、理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待行為を否定し、人権を大切にしている。身体拘束の研修の際、確認しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度をご利用されているご入居者が複数おり、職員は制度について理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、変更等が生じた場合は、その都度丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会が多く、その都度ご意見を伺うようにしている。運営会議への参加を募集しているが、難しい状況で、開催ができ辛い状況である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月のカンファレンスに出席し、職員と意見交換を交わしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況を把握し、賞与査定時に反映させている。また、経験年数に応じ、ステップアップの為の研修に参加させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ参加させる機会を、多く作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小田原市グループホーム連絡会に参加。管理者は役員をしており、会員施設のケアスタッフが研修等に参加しやすい環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込み時に施設を見学、あるいは体験入居をしていただき、不安感や困り事を傾聴し、安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった段階で、現在のご本人の状況を確認し、ご家族の不安感や困り事・要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に在宅サービスをプランニングしていたケアマネジャーへ連絡をし、状況を確認すると共に、自宅等へ訪問して、アセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中から、ご利用者から昔の風習などを教わりながら、一緒に暮らす者同士の関係を構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に、ご本人の日々の状況を説明し、ご本人の望む暮らしをどのように提供できるか、ご家族に出来ること、施設で出来ることを、一緒に話し合えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも面会に来られるよう、施設をオープンにしている。また、電話や手紙等の代行をし、なじみの関係を継続しやすいよう、配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで行うレクや作業を中心に、日中、出来るだけリビングで過ごすことにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族等から相談があった時には、守秘義務に配慮しながら、対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時やケアプランの更新時等に、ご家族やご本人から意見を聞いている。また、日常のかかわりの中でも、ご本人の思いを把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴について聞き取りをし、現在の生活状況等の確認も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操・散歩等を日課として行っている。一人ひとりの趣味などの把握に努め、また、一人ひとりの心身状態や有する力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1回/月カンファレンスを全職員参加で行っている。利用者のケアで気づいた事を話し合い、時にはご家族との話し合いを持ちながら、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録簿にケアに実施・工夫などを記入し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しに生かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内グループのマンパワーを活用し、柔軟な支援体制を確立している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを活用し、懐かしい曲を鑑賞したり唄ったりしながら、日々の暮らしを楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からの主治医に診ていただいている方は、ご本人の希望を尊重し、通院介助を行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常で気付いた情報を看護職員に伝え、相談している。 看護職員は、ご入居者に対し、状況に応じて診察を受けられるよう、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリを作成し、ご本人の状況について、情報提供をしている。急性期が過ぎた段階で速やかに退院出来るよう、医療機関との連携を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にお看取りのことも含めて、ご家族の意向を確認し、施設の方針の説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者の急変や自己発生時に備えて、緊急対応マニュアルが作成されている。応急時の対応についても、行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災訓練を行っている。1回は消防署に通報する訓練を交えた火災避難訓練。1回は、地域の防災訓練に参加。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いや態度に気をつけるよう対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの時間やティータイムを利用して、ご本人達が何をされたいか希望を聞いている。その中で、出来る事を提案しながら、ご本人が決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ルーティーンとしての日課はある程度決まっているが、ご本人のペースで行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や衣類を一緒に買いに行ったり、ご利用者の希望に併せて、訪問理美容を提供している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好みに合わせて、献立以外の物も提供している。職員と外食したり、季節のお弁当を購入して、お花見を楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外に、ティータイムのお茶やおやつ等で栄養や水分の確保をしている。また、ご本人の状態に合わせた食形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で行われる人も、必要に応じて職員が口腔内をチェックしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を参考に、一人ひとりに声をかけ、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前午後に体操を行い、散歩を日課としている。食物繊維の摂取にも心がけている。排泄状態の把握に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、その日の体調やご希望に合わせて、個別対応を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息への声掛けを行っている。日中の適度の運動により安心して気持ちよく安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を確認し、理解している。管理は施設で行い、個々の体重の変化や異変について、確認できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事などを、一人ひとりの状態に合わせて、みんなで行っている。 一人ひとりが役割を持ち、楽しみながら生活出来るような援助を心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出かけている。 また、市内の施設（フラワーガーデンや小田原城等）に少人数のグループで外出することもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭管理は施設で行っている。ある程度自己管理が可能な時は、小額の管理はしていたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等、ご本人が書かれたお手紙を投函している。また、電話の取次ぎ等の援助をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材を利用した建物で、木の香りや温もりが心地よい環境になっている。玄関や洗面台に季節の草花を飾り、家庭的な雰囲気になるよう、心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやテーブルが置いてあり、いつでも自由に交流出来る様になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を入居時にお持ちいただける様、パンフレットに明記し、慣れ親しんだ居住空間に近づけるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、風呂場等に手すりを設置し、自立を促すよう、配慮している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームぼぼ箱根板橋

作成日 平成29年3月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議と同時期にイベントを行う等、地域の人に参加して頂けるよう工夫しているが、地域の参加者が少なくなっている。さらに地域の人参加を促す必要がある。	施設行事はもとより、日頃からの関わりを大切にし、ご入居者が地域の中で生活している「住民」として認知されるよう、働きかける。	イベントの案内配布世帯を増やし、より多くの地域住民にアナウンスする。また、ご近所との何気ない交流の場面を大切にし、挨拶等をより積極的に行う。	2017. 4. 1 ～ 2018. 3. 31
2	35	災害対策について、避難時等に近隣住民の協力が得られるよう、具体的な協力体制が無い。	施設の状況を理解していただき、地域住民に避難訓練等に参加してもらい、災害発生時に協力いただけるようにする。	昨年より地域防災訓練に参加しているが、訓練内容は昨年と同じく施設内での点呼に留まり、実際に避難場所へは行けなかった。今後も自治会長や民生員検討会をし、具体的な避難活動を行う。	2017. 4. 1 ～ 2018. 3. 31
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。